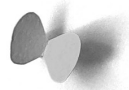


Introduction



街がもっと好きになる、 ウィンメルブックはそんな絵本です。

ウィンメルブックとは、元々ドイツ語圏で長年親しまれている WIMMELBUCH から着想を得た、文字のない絵本です。安野光雅氏の「旅の絵本」を思い浮かべる方々、「ウォーリーを探せ」を連想する方々、皆さんどこかで一度は触れたことのある、絵が主役の絵本。こういった絵本はドイツ語圏で“WIMMELBUCH”としてジャンル分けされています。

絵本を開くたびに新たな発見があり、登場人物を探したり、さまざまな物語を連想させる描写が子ども達の創造性を育ててくれるとても楽しい絵本です。この“読み聞かせない”絵本は、子ども達が自ら物語の語り手となって発言する機会を与えてくれるので、スイスやドイツでは各家庭や幼稚園にも必ずある教育的役割を担った絵本でもあります。

セノアトリエでは日本のこどもたちの為の WIMMELBUCH を「ウィンメルブック」と名付け、「街」という全世代に共通したテーマでウィンメルブックを作っています。

絵本を開くと広がるのは、実在する街の風景。そこに個性豊かなキャラクターたちの楽しく暮らす様子が描かれています。読者が家族とのつながり、人とのつながり、そして街とのつながりを感じられる、絵本以上の本。「この街に行ってよかったね」そんな親子の会話が生まれるかもしれません。

読者の数だけ楽しみ方が生まれる、そんなウィンメルブックをご家族で体験していただけたら幸いです。

セノアトリエ代表 妹尾和乃